4. 現況のまとめと保存活用への課題

4-1　保存管理の課題

樹木の伐採と露出している遺構の保存

ズリ山、ズリ平場の現況

平坦部の植生は、ケヤキやヒノキ植林などである。

割谷地区のケヤキ群落は、人為的な管理要素もある薪炭林と思われ、密度も適切で景観面でも優れている。

（写真：割谷地区のズリ平場）

課題

平場の樹木を伐採した場合、ズリ間に堆積する土壌から生育する下草の繁茂など植生が変化し、現在の景観を維持するためにはより一層管理頻度を高くする必要があると思われる。

また、植生の変化は遺構・遺物の可視化を阻害するとともに、根の伸長などでズリの移動など保存に悪影響を与える可能性が高く、長期的には現在の風景が失われていくことが予想される。

前面斜面（ズリ斜面）の現況

植生は、ケヤキ、クヌギ、スギ、ヒノキ植林などであり、地形勾配があることから、根茎による土砂流出防止機能が働いている。

植生の違いは、日照や湿潤、土壌などにより分類して植林しているためと思われる。

（写真：割谷地区のズリ斜面）

課題

スギ、ヒノキの植林は主に戦後のものであるが、これらの樹木を伐採した場合、根茎による土壌の緊縛性が小さくなり、勾配によっては、雨水の影響もあわせて、ズリの移動が大きくなることが予想される。

下草の植生変化による影響は上記と同様である。また、広葉樹林に対する抜根をしない樹木管理は、萌芽更新など定期的・継続的な諸作業が必要となる。

切場斜面の現況

植生は、スギ、ヒノキ植林などである。

ここは地形勾配が強く、母岩などが露出していることから、樹木などが生育している箇所は基盤となる土壌が存在していると思われる。

（写真：内寒沢地区の採掘に伴う谷）

課題

切場斜面の樹木根茎は、岩の割れ目などに入り込み、ゆるみや亀裂拡大が促進され、遺構を損壊する可能性があることから、適切な伐採が必要である。

反面、薄い表土の存在や樹木による日照の加減により石材の風化を防ぎ、切場の保存に役立っている。間伐や伐採は、現況の地形保全に留意して実施する必要がある。

雨水対策

現況

雨水対策は、樹木の伐採（間伐等を含む）による裸地・疎林化への対応や、地形保全上から必要になる場合がある。

（写真上：後背地から割谷地区につながる支谷

写真下：内寒沢地区の採掘に伴う谷で、雨水の流れにより削られた浅い溝ができかけている。）

課題

雨水排水は、地形的制約から当面は自然浸透を基本とすることが望ましい。土砂災害警戒区域が隣接する地点もあることから、積極的な集水を図る場合は慎重な検証が必要である。

また、各遺跡の後背地に谷があり、小さいながら土砂災害警戒区域につながることから、遺跡の恒久的な保存のため土石流などへの備えの検討が必要である。

ズリ・露頭などの保存対策

現況

風化の進行防止、移動や崩落の危険性、盗難等が懸念される。

（写真上：割谷地区のヤ穴痕が残る岩塊
写真中：割谷地区のズリ平場
写真下：内寒沢地区の採掘に伴う谷の露頭）

課題

重要な採掘の遺構や風化が進む露頭などに対しては、風化・崩落防止策を講じていく必要がある。また、対策を講じる際には、景観への影響を考慮する必要がある。

移動や崩落の危険性への対応として、場の植生であるケヤキ、スギ、ヒノキを適切に管理する必要がある。また、雨水（雨滴）対策や防風、土壌移動防止の面でも植生の管理が必要である。さらに、斜面の要所には土留などの設置を検討する必要がある。

踏みつけによるズリ等の破損、盗難への対策は、監視カメラなどの設置や、見学ルートを設定し園路外へ出られないような工夫を行うなど、自由な見学を制限することも想定される。

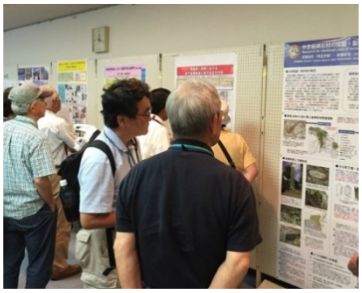
割谷地区の砂防ダム堰堤内の対策

現況	
 	平成 12 年に砂防ダムが建設された。満砂となった場合、ズリ山の一部や露頭が埋没することになるが、現在堤内に沢の上流からの土砂の流入はほとんどない。 （写真上：史跡指定地とつながる砂防ダム 写真下：ズリ平場の北側の急勾配地形）
課題	
昭和 30 年代の大規模な採石で窪地状になり、ズリ平場の北側は平均傾斜が約 80° 以上で既に遺構面がオーバーハングしている。 砂防ダムの堰堤であり、史跡外に位置しているが、史跡地と一体で、かつ崩落の危険性があることから、立入制限や落石防止の対策が必要である。	

4-2　活用の課題

「板碑」の理解促進について

現況	
 	下里・青山板碑製作遺跡についてのパンフレットの配布、小川町 HP での紹介、シンポジウム、展示、遺跡見学会などが行われているほか、他の博物館などの機関に資料の提供を行っている。 また、現地には解説板が設置されている。 （写真上：H26 町主催現地見学会 写真下：H26 町主催シンポジウム）



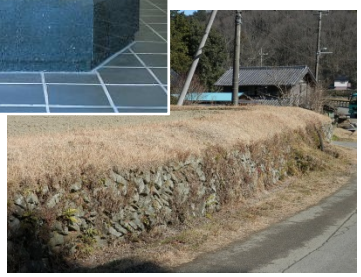
（写真上：H27 町主催展示会
写真下：H28 研究団体と共催研究会）

課題

各種の活動により、下里・青山板碑製作遺跡は町民の間で知られるようになったが、今後の活用においては、板碑の生産と流通だけではなく、板碑に象徴される中世の信仰・精神文化を知る上でも重要な遺跡であることを踏まえ、「板碑」とは何かなどより広い視点から有効な活用を図る必要がある。

下里・青山地区に残る青石の文化

現況



下里や青山地内には、板碑に関わる多様な歴史文化資源、緑泥石片岩を利用した石碑、構造物などが多く存在している。
（写真上：国重要文化財「石造法華経供養塔（六面幢）」
写真下：割谷地区周辺に所在する青石による構造物）

課題

板碑製作遺跡を一つの核として、地域の歴史的経緯や風土に根ざした様々な文化財や周辺環境を含めた総合的な保存活用につなげるため、これら多様な歴史文化資源を踏まえたストーリーを構築し、「面」として保存活用を図り、地域の歴史的魅力を発信する必要がある。

4-3　整備の課題

各地区の現在の活用と今後

現況	
	割谷地区は他に比べてアクセスが容易であることから、散策ルートが設定されている。他の２地区は案内板等は少ない。 （写真：割谷地区内の散策ルート）
課題	
史跡の特徴を生かした整備が必要である。また、立地等の現状を見ると短期・長期に区分した整備を検討する必要がある。その中でも、当面の見学や日常的な管理を行う園路整備や解説板、誘導板の整備は早急に行う必要がある。	

4-4　運営・体制の課題

現況	課題
小川町が管理団体であり、管理や運営は、主に小川町教育委員会が行っている。	管理団体である行政が主体となって行うが、地域住民の理解と参画・協働が不可欠である。また、体験イベントや遺跡見学会などの普及啓発活動も工夫をこらしながら、発展的に継続することが必要である。 また、調査研究や保存活用に関する水準の維持・向上と持続可能な体制づくりを目指す必要がある。

■表 14　各地区の現状と主な課題

項目	割谷地区	西坂下前Ａ地区	内寒沢地区
面積	8,258.98 ㎡	29,988.87 ㎡	16,975.00 ㎡
地目	山林、道路	山林、道路	山林
公有地	約 2.4%（町道）	約 2.2%（町道）	0%
最高所と付近道路との比高	59.4m	119.1m	102.2m
地形	山地	山地	山地
平場の主な植生	ケヤキ・クヌギ	ヒノキ植林	ヒノキ植林
主な法規規制	砂防指定地 土砂災害警戒区域	土砂災害警戒区域	土砂災害警戒区域
アクセス（※Google 地図で小川町駅から直近道路まで）	約 4.9 ㎞（16 分） （車両移動による距離と時間）	約 5.7 ㎞（17 分） （車両移動による距離と時間）	約 5.6 ㎞（16 分） （車両移動による距離と時間）
史跡内の主要な遺構付近からの景観	眺望なし	北方位への眺望可（ただし、樹木伐採）	西側の谷方向への眺望可（ただし、樹木伐採）
保存管理上の課題	・ズリやズリ山、斜面等の採掘遺構・遺物が露出した状態であり、風化の進行や移動、崩落の危険性がある。		
	・ズリ石材等の盗難、人為的な移動・破壊の可能性がある。		
	・樹木等により保護される反面、根茎の侵入等による浸食や破損がある。		
	・民有地であり、遺構保存と植林地の森林管理の具体的な調整が必要。		
	・日常的な管理が難しい。		
	・安全対策（砂防ダム、沢、崖地、倒木・枝落下、蛇・蜂等）。		
	・雨水対策への配慮が必要。		
	・土石流防止対策の検討。		
	・土砂災害警戒区域等であり関係機関と十分な協議が必要。		
	・広範に分布するほかの 16 か所の板碑石材採掘遺跡が未指定であり、総体的な保存管理が必要。		
活用の課題	・遺跡の性格や空間構成等の具体像を視覚的にイメージしづらい。		
	・各遺跡内の導線の確保が難しい。		
	・各遺跡へのアクセス及び各遺跡間の導線の確保が難しい。		
	・便益施設等の必要性がある。		
	・周辺に所在する歴史的･自然的･社会的資源と関連した活用。		
	・地域と連携した活用。		
整備の課題	・継続的な調査研究とそれに基づく整備。		
	・長短期的に区分した整備。		
	・周辺地の特性を生かしたソフト的な展開。		